

令和2年度社会福祉法人なづな学園

事業報告

目次

事業の概要	1
業務報告	2
各事業の状況	8
1. なづな学園	8
2. かしの木学園	11
3. サービスセンターふらっぷ	15
4. わかな	18
5. グループホーム	22
6. 計画相談支援	25

令和3年6月4日

社会福祉法人なづな学園

事業の概要

令和2年度は嵐山地区に取得した土地に利用者の高齢・重度化に対応する日中支援およびグループホーム施設を建設する大きな事業に向けてスタートした。

一方、新型コロナウイルスの猛威が続き、従来事業にも大きな影響が出た。なづな学園は生活介護と就労継続支援B型の多機能型事業所として、かしの木学園は生活介護、就労移行、就労継続支援B型の多機能型事業所としてサービス提供を行った。施設利用者数はなづな学園（定員35名）は平均在籍数38名、かしの木学園（定員55名）は59名であった。1年間の平均利用者数は、なづな学園は30.9人、かしの木学園は54.5人であった。就労支援事業収入としては前年度比でなづな学園は59.5%、かしの木学園は71.1%と大きく減少した。

グループホームについては定員は前年度と同じ28名、月間平均利用人数は25.6人であった。

ふらっぷについては、月間平均サービス提供時間が令和元年度の1779時間から1465時間と314時間減少した。内訳は行動援護の49時間、移動支援の244時間の落込みが大きかった。平成26年3月に開所した障害児通所支援・放課後等ディサービス「わかな」の1日平均利用人数は令和元年度の7.8人から7.0人に減少した。

嵐山地区の建設は令和2年9月に着工した。木造1階建て生活介護棟と木造2階建て22床のグループホーム棟が令和3年3月に予定通り完工した。令和3年5月からの利用開始に向け準備中である。

人事労務面では、令和2年度は常勤支援員として男子2名、女子1名を採用した。新規採用者についても独立行政法人福祉医療機構退職手当共済制度に継続して加入できるよう便宜を図った。

人材育成については新人職員についてきめ細かく指導・相談を行うためプリセプター制度を平成28年度から導入試行し令和2年度も継続実施した。

職員処遇面では、令和2年度は新型コロナの影響が不透明であったため定期昇給を見送った。処遇改善加算は前年度比93.5%と減少した。還元策としては常勤支援員については基本給を1万円アップ、残りは年2回一時金として支給した。非常勤支援員・世話人・登録ヘルパーについては時給100円のアップを行い、年2回一時金として支給し処遇面での充実を図った。特定処遇改善加算については前年度並みに常勤職員、非常勤職員に還元した。

令和2年度決算結果は法人全体でサービス活動収益は434百万円（前年比98.0%）、サービス活動増減差額は2802万円（前年比141.7%）となった。事業所別サービス活動増減差額についてはふらっぷとわかなを除く事業所でプラスであった。また、2年度決算結果に基づく社会福祉充実残高は△284百万（前年度△74百万）で計画の策定は不要となったが、地域における公益的な取組については積極的に実施していきたい。

令和2年度は京都市による指導監査は対象外、また実地指導もなづな学園、ホームなづな、ホームななくさは対象外であったが、年間を通して法人および各事業所とも適正な運営ができたと考えている。

業 務 報 告

1. 理事会・評議員会・評議員選任・解任委員会の開催及び監査の実施

(1) 理事会の開催

開催日	議案等	内容	結果
令和2年 6月4日 (書面同意)	第1号議案	令和元年度事業報告について	承認
	第2号議案	令和元年度決算報告について	承認
	第3号議案	評議員選任・解任委員会運営細則の改正について	承認
	第4号議案	理事及び評議員選任・解任委員の交代について	承認
	第5号議案	定時評議員会の招集について	承認
	報告事項	理事長職務執行状況報告	
	報告事項	嵐山案件の状況報告	
	7月31日	第1号議案	解体工事指名業者選定と契約について
	第2号議案	生活介護棟およびグループホーム棟建設に伴う指名業者選定について	承認
	第3号議案	建築費の一部借入および担保提供について	承認
	報告事項	理事長職務執行状況報告	
8月31日	報告事項	資金収支内訳表(令和2年4月~6月)	
	第1号議案	嵐山地区における新築工事の契約について	承認
	第2号議案	放課後等デイサービスセンター「わかな」の運営規程の改定	承認
	11月11日	第1号議案	嵐山事業所(仮称)の建設に係る設計変更について
	報告事項	令和2年度上期決算報告	
	報告事項	理事長職務執行状況報告	
令和3年 3月22日	第1号議案	令和2年度第1次補正予算について	承認
	第2号議案	令和3年度事業計画について	承認
	第3号議案	令和3年度当初予算について	承認
	第4号議案	評議員選任・解任委員の交代について	承認
	第5号議案	評議員会の決議について	承認
	第6号議案	運営規程の制定について	承認
	第7号議案	経理規程の改訂について	承認
	報告事項	理事長職務執行状況報告	
報告事項	職員の退職・異動・採用について		

(2) 評議員会の開催

開催日	議案等	内容	結果
令和2年 6月22日 (書面同意)	第1号議案	令和元年度決算報告について	承認
	第2号議案	理事の交代について	承認
	報告事項	令和元年度事業報告	
令和3年 3月22日	第1号議案	令和2年度第1次補正予算について	承認
	第2号議案	令和3年度事業計画について	承認
	第3号議案	令和3年度当初予算について	承認
	報告事項	理事長職務執行状況報告	

(3) 監査の実施

実施日	令和2年5月27日
監事名	東 監事、小坂監事
監査項目	令和元年度事業に係る理事の業務執行状況、法人の財産管理状況、法人及び施設の業務執行状況、法人及び施設の会計状況、その他の状況について実施
監査結果	監査項目に対しすべて適正、指摘事項なし、総括（認定）

2. 会議・研修・行事等の開催状況

別紙記載の通り

3. 職員の構成

(1) 常勤職員 週5日勤務者

① 事業所別

令和3年3月31日現在

事業所	施設長等	主任以上	支援員	事務員	計
なづな学園	1	1	9	1	12
かしの木学園	1	2	14	1	18
ふらっぷ	1	1	9	0	11
わかな	(1)	2	1	0	3(1)
グループホーム	1	0	0	0	1
嵐山準備室	(1)	2	0	0	2(1)
相談支援	(1)	0	(6)	0	(7)
人数計	4(3)	8	33(6)	2	47(8)

但し、上記人数には育児休業者2名、4月30日付退職者2名を含む。

② 職員区分別

令和3年3月31日現在

正職員	嘱託	有期契約	計
41	3	3	47

③ 新規採用者と退職者

令和2年度

	正職員	嘱託	有期契約	計
新規採用	3	0	0	3
退職者	3	0	0	3

退職者2名は4月30日付で退職

(2) 非常勤職員

令和2年3月31日現在

事業所	非常勤職員						合計
	世話人	ヘルパー等	支援員	その他	嘱託医	看護職員	
本部	—	—	—	5	—	—	5
なづな学園	—	—	4	—	1	1	6
かしの木学園	—	—	10	—	1	1	12

別紙 行事等報告書（本部）

月	会議	行事	研修会等	その他
4月	管理者会議（4回）	辞令・入職式(4/1)	請求システム説明会	昇給辞令、決算報告会
5月	管理者会議（4回）	監事監査(5/27)	指導監査等説明会(省略) 障害福祉サービス事業者集団指導(なし)	
6月	管理者会議（3回）			ビジネスマナー研修会(6/13)
7月	管理者会議（4回）		主任連絡会議(7/16,30)	採用面接(7/30)
8月	管理者会議（3回）	第3回建設委員会(8/19)	係長連絡会議(8/12)	高宮前理事長死去(8/24)
9月	管理者会議（3回）	地鎮祭(9/7)	主任連絡会議(9/3) 係長連絡会議(9/29)	
10月	管理者会議（3回）			
11月	管理者会議（3回）		主任連絡会議(11/11,27)	入職試験(11/9)
12月	管理者会議（3回）	上棟式(12/11)	主任連絡会議(12/10,23) 係長連絡会議(12/15)	
1月	管理者会議（4回）		主任連絡会議(1/27)	
2月	管理者会議（2回）	合同職員会議(2/24)	主任連絡会議(2/12,25)	
3月	管理者会議（4回）	入職式(3/31)		入職試験(3/3,3/18)

ふらっふ	—	22	2	—	—	—	24
わかな	—	11	1	—	—	—	12
グループホーム	31	—	—	—	—	—	31
合 計	31	33	17	5	2	2	90

4. 定款・規程等の制定・改定

名 称	理 由	施行日
定款変更	基本財産の追加	R2.4.6
運営規程改定	京都市の指導によりわかな運営規程を改定	R2.9.1
運営規程制定	すずしろ、ホームあらしやまの開業に伴い新規に制定	R3.4.1
経理規程改定	嵐山の開業に伴いサービス区分を改定	R3.4.1

5. 寄付金・補助金等の取得状況

(1) 寄付金

単位：円

寄付者の属性	区分	件数	金 額	拠 点 区 分
その他	経	1	10,000	なづな学園
旧職員	経	1	10,000	なづな学園
利用者家族	経	1	1,000,000	なづな学園
利用者家族	経	1	300,000	かしの木学園
利用者家族	施	1	10,000,000	嵐山
令和2年度計	経/施	5	11,320,000	前年度比（109%）
令和元年度計	経/施	12	10,408,000	前年度比（241%）
平成30年度計	経/施	21	4,324,000	前年度比（555%）

区分欄の「経」は経常経費寄付金収益、「施」は施設整備寄付金収益

(2) 補助金等

単位：円

区分欄の「障」は障害福祉サービス等事業、「施」は施設整備等事業

*印の補助金はコロナ感染症対策 9,836,780円

交付団体および交付の目的	区分	交付金額	拠点区分
京都労働局 キャリアアップ助成金	障	720,000	本部
京都市 東山区まちづくり支援事業助成金	障	90,000	なづな学園
京都市 支え合い支援金	障	900,000	なづな学園 他
*京都市就労継続支援B型工賃補償補助金	障	2,748,701	なづな学園、かしの木学園
京都市重度障害者利用事業所支援補助金	障	2,456,000	なづな学園
京都市民間社会福祉施設サービス向上補助金	障	275,000	かしの木学園
京都府 民間社会福祉施設サービス向上補助金	障	1,375,000	かしの木学園
*京都府コロナ感染症緊急包括支援事業補助金	障	4,477,733	なづな学園 他
*京都府コロナ感染症緊急包括支援事業補助金	施	1,614,267	なづな学園 他
京都市障害福祉施設施設整備費補助金	施	83,150,000	嵐山
*京都市 就労継続支援事業所生産活動	障	302,299	なづな学園 他

活性化支援事業補助金	施	693,780	
東山区社会福祉協議会 事業助成金他	障	50,156	なづな学園 他
令和2年度計		98,852,936	前年度比 (1715%)
令和元年度計		5,762,874	前年度比 (116%)
平成30年度計		4,953,777	前年度比 (62%)

(3) 職員処遇改善助成金

区分	事業所	助成額 (円)	支給額
令和2年度上期 (4月～9月)	なづな学園	1,528,316	常勤支援員は基本給を月1万円、一時金として上期72,000円、下期66,000円支給 非常勤者は基本給を100円/時間アップ。一時金として非常勤支援員は上期90円/時間、下期85円、世話人は上期70円/時間、下期65円/時間を6月と12月に一時金支給した。 さらに特別手当として半期単位に総就労時間に応じて2万円～10万円を支給した。
	かしの木学園	2,679,061	
	ふらっふ	4,723,923	
	わかかな	868,194	
	グループホーム	3,026,085	
	上期計	12,825,579	
令和2年度下期 (10月～3月)	なづな学園	1,487,396	前年度比 93.7%
	かしの木学園	2,737,322	
	ふらっふ	4,268,922	
	わかかな	957,393	
	グループホーム	3,102,205	
	下期計	12,553,238	
令和2年度	年間計	25,378,817	前年度比 105.6%
令和元年度	年間計	27,073,376	前年度比 113.4%
平成30年度	年間計	25,639,588	前年度比 138.7%
平成29年度	年間計	22,596,185	前年度比 97.7%
平成28年度	年間計	16,296,306	

(4) 特定処遇改善加算

区分	事業所	助成額 (円)	支給額
令和2年度	上期計	3,387,933	常勤職員にはランクに応じて月12000,6000,3000円を手当として支給、非常勤者にはランクに応じて時給170円,50円を加算して支払う
	下期計	3,290,283	
	年度計	6,447,901	
	前年度比	196%	
令和元年度下期 (10月～3月)	下期計	3,379,009	

6. 不動産の取得

嵐山地区に利用者の高齢・重度化に対応した生活介護棟とグループホーム棟を新規に建築

(住所) 京都市西京区嵐山上海道町78番地

(生活介護棟) 1階建て木造 延べ床面積 135.02㎡

(グループホーム棟) 2階建て木造 延べ床面積 818.47㎡

7. 設備改修・備品取得の状況

科 目	内 容	金額 (円)
事務消耗品費	ノートパソコン (15 台)	1,389,300
	フォームブリッジ (買取ソフト)	75,240
備品	Kintone 用プリントソフト (買取)	107,800
保守委託費	弥生給与 サポート料	49,720
	パソコン 5 年間保守費 (18 台分)	357,060
	サーバー保守料 (2 年間)	99,110
賃借料	会計システム年間使用料	620,400
	給与勤怠システム年間使用料	404,415
手数料	グループウェア (Desknet's) 使用料	343,200
	Kintone 使用料	168,300
	セキュリティソフト年間更新料	155,122
合計		3,769,667

各事業の概要

1. なづな学園

令和2年度は、利用者に関しては、4月に1名の新規利用者を迎え、利用者38名、有期契約職員含め職員18名の体制でスタートしました。

年度途中の変更としましては、生活介護利用者1名と就労継続B型利用者1名が、年度末に退所されております。

障害者総合支援法の理念に基づき多機能型事業所の役割を果たすべく、就労継続支援B型・生活介護に於いて事業を展開すべく計画立てて参りましたが、コロナ禍の影響を大きく受け、特に就労収支に関しては、前年度の約60%にとどまり、中でも、紙器加工に関しては、前年度の約30%という数字になりました。就労継続B型に関しては、京都市よりのB型工賃補填が前期上半期に於いて

実施され、利用者への工賃支払いに役立てましたが、年間を通すと平均工賃の大幅なダウンとなりました。生活介護に関しては、外部講師を招いてのゆとりメニューに加えて、職員による対応の充実を図る事で、利用者の暮らしのゆとりを考えてきました。内容は充実してきましたが、次年度更なる充実を目指して継続して検討をしていく事となりました。

(1) 利用者の状況

① 定員および在籍数 2021年3月31日現在

	定員数	現員数
生活介護	14人	15人
就労継続支援B	21人	22人
計	35人	37人

補足：2020年2月27日付 就労継続B型1名他就労移行事業所へ移籍退園

2020年3月31日付 生活介護1名介護施設へ移籍退園

② 年間利用者数

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
月初人数	生活介護	13	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13.8
	就労B	25	25	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24.1
	計(A)	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38	38.0
通所日数	最高	21	18	22	22	19	21	22	20	22	18	18	23	20.5
	最低	8	7	1	1	6	8	7	4	0	0	0	0	3.5
月延人数		649	586	687	651	609	666	671	595	564	559	574	732	628
1日平均利用人数(B)		30.9	32.6	31.2	29.6	32.1	31.7	30.5	29.8	28.2	31.1	31.9	31.8	30.9
開所日数		21	18	22	22	19	21	22	20	20	18	18	23	20.3
通所率(B÷A)		81.3	85.7	82.1	77.9	84.4	83.4	80.2	78.4	74.2	81.8	83.9	83.6	81.3

➤ 生活介護平均利用率 84%

➤ 就労継B平均利用率 81%

③ 年齢構成

	～20	21～30	31～40	41～50	51～60	61～70	71～80	計	平均年齢
生活介護	1	2	2	1	4	2	2	14	51.6
就労B型	1	9	5	4	1	3	1	24	37.3
計	2	11	7	5	5	5	2	38	40.8

④ 在籍状況

	～5	6～10	11～20	21～30	31～40	41～50	計	平均年数
生活介護	0	3	1	3	3	4	14	25.7
就労B型	5	8	7	2	0	2	24	17.1
計	5	11	8	5	3	6	38	19.4

⑤ 療育手帳取得状況

	A	B	計
生活介護	10	3	13
就労B型	19	6	25
計	29	9	38
全体比	76%	24%	

⑥ 就労継続支援B型 2020年度平均工賃(京都市B型工賃補填含)

総支給人数	就労時間	工賃支払総額	平均工賃月額	平均工賃時間額
合計③	合計①	合計②	②÷③	②÷①
264人	16.335時間	1,511,950円	6,873円	93円
参考 2019年度	平均工賃月額 11,913円 平均工賃時間額 99円			

➤ 参考 2021年度就労継続支援B型報酬区分 ¥10,000～¥15,000区分にて確定

(2) 活動実績

① 作業内容

	作業班	作業内容	製品
受注	紙工	紙箱(トムソン箱)	ハッ橋他の菓子箱 小豆の選別
自主	テキスタイル (織物・編物)	織り・刺し子・絵・染め 機械編み・手編み	織り(職員の学習) 刺し子(ふきん) 機械編み(靴下他) 手編み (菊ざぶとん、帽子、アクリルたわし他)
	製菓	クッキー・他	クッキー(胡麻、抹茶他) マドレーヌ
	ペーパークラフト	紙製品・モザイクタイル	紙製品(名刺、はがき、便箋、ぼち袋他) タイル(ピンチホルダー他) 絵(カード、カレンダー他)
	陶芸(生活)	手びねり・石膏型	オブジェ(カエル作品、花器他)

	陶芸（就労B）	型もの・アクセサリー マグネット	食器（皿、器、他）ろうそく立（下請） アクセサリー（ブローチ、イヤリング）
	喫茶 カフェなづな	接客 パン販売(火・木・金)	コーヒー（コロコロ）・紅茶 かしの木製造パン 工房ソラどら焼セット 小豆アイス・くずきり・他 季節限定メニュー パスタ

(3) 年間行事实施状況

別紙参照願います

(4) 設備改修、備品等の取得状況

区 分	内 容	対 応	金 額 (円)
備品等	シーラー（製菓作業）	大塚商会	¥43,450
	空気清浄機	大塚商会	¥60,280
	レーザー彫刻機	大塚商会	¥72,880
	飛沫防止パーテーション	大塚商会	¥43,780
改装等	エアコン修理（2台分）	洛東電気	¥245,300
	陶芸土練機修理	林田鉄工所	¥112,530
建物附属設備	防火扉改修	ホーチキ	¥34,650
	玄関前ガス配管工事	大阪ガス	¥97,000
	ガス工事後のタイル補修	谷口住建	¥97,900
合 計			¥807,770

2. かしの木学園

- (1) 令和2年度は生活介護に1名の利用者を迎え、利用者60名、常勤職員18名でスタートした。新型コロナウイルス感染症の影響で4月から5月末まで在宅支援を行うことを余儀なくされ、利用者にとっては未曾有の不安、職員にとっても緊張が続いた1年間であった。

多機能型事業所として個別支援計画をもとに、下記のとおり実施した。

高齢化対応として、送迎を増員しゆったりグループを設置。個別プログラムに取り組んだ。

- ・生活介護事業

作業活動に参加するとともに、利用者の生活に癒しと意欲、健康増進を図る生活介護活動を希望選択制で実施した。作業活動としてパンの製造販売、陶芸、縫製、箱折、各種受注作業等を実施。生活介護活動として、アート、音楽、運動、足湯、地域清掃、散歩等を実施。その他ゆったりグループを設置し、8名の高齢者支援対応を個別に行った。

- ・就労継続支援 B 型事業

作業活動と社会参加活動の融合で、自立と生き甲斐のある生活ができることを目指した支援を目指す。作業活動としては、パンの製造販売、コーヒー焙煎販売、箱折、各種受注作業を行う。紙工作業等下請けは大きく世情の影響を受けたが、かわらけ等は通常並みの納品量が維持できた。

- ・就労移行支援事業

清掃作業を中心に一般就労を目指す諸活動を実施。

活動内容は、清掃作業、各種受注作業、一般就労に向けた各種研修・実習。関連機関と連携を基に取組みを進めている。令和2年度一般就労者はなかった。

- (2) 利用者の状況

① 定員および在籍数

	定員	在籍数 (R3.3.31)
生活介護事業	26	30
就労継続支援 B 型事業	23	25
就労移行支援事業	6	3
合計	55	58

② 年間利用者数の推移

令和2年度

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
月 初 人 数	生活介護	31	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30.1
	就労B型	26	26	26	26	26	26	27	27	26	25	25	25	25.9
	就労移行	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3.0
	計(A)	60	59	59	59	59	59	60	60	59	58	58	58	59.0
通所 日数	最高	20	18	22	22	20	21	23	20	21	18	18	24	20.6
	最低	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
1日平均 利用者数(B)		55.4	57.7	55.8	55.9	54.4	54.0	54.6	52.2	53.6	54.1	53.8	52.7	54.5
開所日数		20	18	22	22	20	21	23	20	21	18	18	24	20.6
通所率%(B÷A)		92.3	97.8	94.6	94.7	92.2	91.5	91.0	87.0	90.8	93.3	92.8	90.9	92.4

③ 年齢構成

(人) 令和3年3月31日現在

	～20歳	21～30	31～40	41～50	51～60	61～64	65～	計	平均
生活介護	1	2	4	7	5	2	9	30	42.4
B型	1	11	2	3	3	0	5	25	37.8
就労移行	0	2	1	0	0	0	0	3	27.3
合計	2	15	7	10	8	2	14	58	35.8

④ 在籍年数

(人) 令和3年3月31日現在

	～5年	6～10	11～20	21～30	31～40	41～	合計	平均
生活介護	1	2	5	9	5	8	30	26.9
B型	9	4	4	5	1	2	25	14.6
就労移行	3	0	0	0	0	0	3	1.8
合計	13	6	9	14	6	10	58	14.4

⑤ 障害支援区分状況

(人) 令和3年3月31日現在

	1	2	3	4	5	6	未判定	合計	平均区分
生活介護	0	0	0	10	15	5	0	30	4.7
B型	0	0	1	13	3	0	8	25	
就労移行	0	0	1	0	0	0	2	3	
合計	0	0	2	23	18	5	10	58	

⑥ 療育手帳取得状況(知的障害の程度)

(人) 令和3年3月31日現在

	A	B	計
生活介護	30	0	30

B 型	13	12	25
就労移行	1	2	3
合計	44	14	58

A：最重度、重度 B：中度、軽度

⑦ 身体障害者手帳 及び 精神障害者保健福祉手帳 取得状況

(重複障害の状況)

(人) 令和3年3月31日現在

	視覚	肢体	言語	聴覚	内部	精神	計
生活介護	1	4	3	1	1	1	11
B 型	0	1	0	2	2	0	5
就労移行	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	5	3	3	3	1	16

(3) 活動実績

① 就労(授産)作業の状況

作業	作業・製品
清掃	東山洛東園の清掃, 駅 ATM の清掃
陶芸	かわらけ、湯呑、皿、箸置、カップ等の製作
受注	菓子箱、各種箱の箱折 その他
縫製	コースター、ティッシュケース 等の製作
パン	サンドイッチ、各種パンの製造・販売 喫茶営業
珈琲	オリジナルコーヒーの焙煎、豆・ドリンク販売

② 利用者工賃(令和2年度)

単位：円

種別	支給回数	支払額			合計
		生活介護	B 型	就労移行	
給料	各月	1,217,240	2,208,210	791,119	4,216,569
賞与	夏、冬、決算	149,610	285,000	158,530	593,140
全利用者年間総額		1,366,850	2,493,210	949,649	4,809,709
1 人	年間平均額	45,562	99,728	316,550	82,926
1 人	月 平均額	3,797	8,311	26,379	6,911

(参考)

単位：円

	支払総額	1 人年間平均額	1 人月平均額
28 年度	6,943,246	128,579	10,715
29 年度	7,193,732	130,795	10,900
30 年度	7,578,995	135,339	11,278

R 元年度	8,629,708	154,102	12,842
R 2 年度	4,809,709	82,926	6,911

- (4) 年間行事、防災訓練、健康・衛生管理、会議、職員研修等の実施状況
 年間行事は殆どが中止、延期となった。
 唯一、12月に天橋立キャンプ旅行実施
 職員研修等も外部研修は概ね中止延期となった。

3. サービスセンターふらっふ

1. 概況

令和2年度の事業については、実利用者数は135人と前年度より13名減少した。コロナ禍による活動の自粛により支援時間も大幅な減少であった。職員は常勤11名と非常勤2名、登録ヘルパー21名の組み合わせによりスタートしたが7月に職員の異動、3月末に2名の退職があった、登録ヘルパーは5名の新規登録があったが、緊急事態宣言による支援数の減少や外出の不安から活動休止となったケースもあった。

課題として、

○高齢化・重度化する利用者への生活支援のあり方、利用者の家族の諸事情に起因する生活を共に支えていく家庭機能の低下に伴う支援のあり方等について、職員及び登録ヘルパーの介護スキルの向上が喫緊の課題となっている。又、発達障害等多様化する利用者への支援についても、知識習得が必要である。

○学生ヘルパーの卒業、登録ヘルパー高齢化によりヘルパー確保が必須となっている。ガイドヘルパー講習での育成、新規募集を重ねているが昨今の就職情勢で厳しい状況である。SNSを活用した募集の方法を模索したり、処遇面の制度改訂など含め検討を重ねたい

2. 令和2年度の事業数値

○全体的な数値は、昨年度と比べ大きな変化ないが高齢化が進んでいる。

- ・利用者男女比：女性約6割
- ・お住まいの行政区：主に右京区が約5割、その他市内全域に点在
- ・年齢構成：65歳以上の方が2名増（1名は今年度新規）
- ・日中支援利用先：学園やホーム等法人関連事業所の利用が5割強。わかながきっかけとなり、ふらっふやかしの木への利用につながるケースがある。

○サービス提供時間数(時間/月)

支援時間数は移動支援、行動援護が大幅減少、介護保険の増加はストップ、全体で支援時間減となった。(別表参照)

支援実施についても当初予定されたものがキャンセルが相次ぎ支援配置の対応も難しい状況が続いた。

(別表)

単位：時間

月	利用時間 合計	居宅介護	行動援護	重度訪問	移動支援	訪問介護
R2/4	1521.7	261.0	440.0	16.0	894.0	38.0
5	1628.3	220.0	434.5	10.5	939.8	24.0
6	1370.6	260.0	333.5	18.0	728.6	35.0
7	1556.8	259.5	378.3	16.0	872.0	35.0
8	1493.0	245.0	401.6	12.5	802.9	31.0
9	1680.1	284.5	411.8	16.0	940.7	34.0
10	1595.4	248.0	376.2	16.0	918.8	34.5
11	1501.9	226.4	354.5	9.0	881.0	31.0
12	1592.8	282.0	417.9	8.5	828.8	32.0
1	1155.5	242.3	285.8	0.0	586.5	30.0
2	1153.3	226.0	264.5	10.5	619.8	28.0
3	1328.6	262.0	301.8	8.5	723.8	38.0
R2 平均	1465	251	367	11	811	33.0
R1 平均	1779	262	416	19	1055	27
R2/R1 比率	82%	96%	88%	62%	77%	120%
H30 平均	1776	263	415	18	1053	27
H29 平均	1714	289	331	17	1063	15
H28 平均	1731	289	323	16	1105	0

3. 課題と業務振り返り

(1) サービスの利用拡大

コロナが大きな影響を及ぼし全体として大幅減となった。利用者数については若干減少、支援時間数2割減で移動支援、行動援護が大幅減少となった。外出自粛要請をきっかけに、依頼が途絶えてしまった利用者もいる。さらにふらっぷの外出支援時の対策が他社と比べて制限(ex.公共交通機関の利用不可)があり、利用のしづらさを理由に他社へ乗り換える利用者もおられた。

次年度も引き続きコロナ禍での支援になる予測だが、個別外出、居宅支援ニーズ等の掘り起こしや再確認も含め、学園・ホームを含め利用者・家族の希望に沿えるように工夫を重ねたい。

(2) ニーズに応え、利用者満足度を高める

ヒヤリハット報告書について、報告数を増やす目的で電子型書式を試験実施中。分析と全ヘルパーへの共有も引き続き検討中である。

ふらっふ通信は年2回発行、職員及びヘルパーの記事を主に掲載。外出自体の自粛要請もあり SNS の更新頻度は少なかった。今後 SNS の使用目的、投稿に関するルールなど再度確認する必要がある。

(3) ヘルパー確保と働きやすい職場環境

職員は4月2名増であったが7月1名減、3月末2名減となった。活動登録ヘルパー総数は26名、求人は継続しており、口コミでのリクルート、ハローワーク、求人誌募集及び手当改訂を実施したが、応募者は増えていない。

「ガイドヘルパー養成研修」は、当初5月に予定したがコロナの影響により延期をして9月のみ実施となった。受講者数は18名と例年に比べ多数の応募をいただいたが、他事業所所属の参加が多く、ふらっふ登録者が少なくなってしまった為工夫の余地がある。講師や講義内容の内製化などでコストを減らして、今後も継続して実施していきたい。

(4) 職員、ヘルパーの知識、技術レベルの向上

主催した研修、ヘルパー連絡会ではコロナ対策として会場を分けてリモート体制とするなど柔軟に対応した。年度前半は集合型の研修やヘルパー連絡会が実施できず、登録ヘルパーの方々のストレスを肌で感じ、対面の重要性を痛感した。登録ヘルパーと可能な限り顔を見合わせてやりとりのできる時間。コロナ対策やプライベートも含めたストレスなど意見交換もでき一定の効果は実感できた。

介護労働安定センターの協力を得て、会議技術スキル取得研修を10月から1月1回法人職員及び世話人登録ヘルパー対象に実施した。

外部研修は、リモートで行われるものについて参加した。

(5) 業務内容の効率化

今年度事務効率化について、法人DB構築(kintone)により、利用者情報、支援計画、支援手順等を順次移行している状況。今後は担当者を配置し、アプリ作成やその他機能を活用しさらに効率化を進めていきたい。

請求業務については請求ソフト(ヘルパーアシスト)を利用することでヘルパー配置業務と請求業務を連動させることが可能になり、特定事業所加算取得の意味でも、また作業時間短縮の意味でも次第に戦力になりつつある。

4. わかな

1. 概況

放課後等デイサービス事業所「わかな」は、昨年度は途中退所および卒業で契約者数減、新規契約4名（年度途中含む）で計6名減であった。重度利用者事業所区分の変更による減算に加え、コロナの影響で利用数が大幅減となり、収益の落ち込みが著しかった。キャンセル枠を他利用者へ積極的に案内し、補てんに努めたが十分ではなかった。

外出を控え、室内で過ごすことが多くできることが限られてしまったが、利用者や保護者の要望を取り入れつつ、集団プログラムや個別療育を実施した。

集団プログラムは年間を通して目的や目標の設定を行ない、継続して取り組み組み、できたことの見える化を目指す。

2. 利用者の状況（令和年3月末日現在 契約者数 26名）

年齢分布	H31 (R1) 年度		令和2年度	
	人員	比率	人員	比率
小学生	15名	47%	13名	50%
中学生	10名	31%	5名	19%
高校生	7名	22%	8名	31%

男女比	H31 (R1) 年度		令和2年度	
	人員	比率	人員	比率
男性	21名	66%	19名	73%
女性	11名	34%	7名	27%

行政区	H3 (R1) 1年度		令和2年度	
	人員	比率	人員	比率
右京区	27名	86%	21名	81%
中京区	4名	11%	4名	15%
西京区	1名	3%	1名	4%

学校別人員	H31 (R1) 年度		令和2年度	
	人員	比率	人員	比率
西総合支援学校	13名	45%	13名	50%
その他支援学校	4名	14%	3名	12%
地域小学校	11名	38%	10名	38%

年間利用者状況

	延べ利用数	開所日数	1日平均
H31 (R1) 年度	2532 人	301	7.8 人
R2 年度	2117 人	299	7.0 人

3. 重点課題の振り返り

(1) 福祉サービス収益の拡大を図る

① 平均利用者数の拡大

→緊急事態宣言による利用の自粛や6月に6日間臨時休業したこと、利用者が濃厚接触者に該当したことによるキャンセル等により前年度に比べ延べ利用者数が415人、1日平均利用者数0.8人下がった。

② 利用者の要望に極力答えられる努力を行う

→送迎時間や場所の変更、受入れ時間、個別対応等、要望に応えるように努めた。

(2) 利用者への支援の質と満足度の向上を図る

① 児童の自立育成の取組みを開始する（基準設定と結果の見える化）個々の児童の状況と目標レベル明確化と共有、モニタリング実施

→保護者の意見を取り入れながら個々の課題に向けてアプローチしている。目標レベル明確化と共有は利用者全員に対してはできておらず、引続きの課題である。

② 音楽療法や個別療育支援、集団レク等の積極的实施を行う

→集団プログラム：調理、創作活動、運動、感触遊びなど毎日実施。

音楽療法：月1回（第3木曜）にJEUGIAより派遣。

個別療育：それぞれの個別課題に合わせての療育。宿題サポート。

作品展：12月になづな展（みやこメッセ）、2月にわかな展（右京ふれあい文化会館）を実施。保護者からは子ども達の作品を見ることで活動の様子を知ることができよかったと好評であった。

③ 他事業所との連携活動（合同プログラム等）の継続実施

→あしたば、あっとわっとと月1回合同プログラムを実施。

④ 保護者と定期的（年2回）に懇談し、自己評価や保護者満足度向上に生かす

→モニタリング時期（9月頃、3月頃）に懇談を実施。感染予防の為、対面、リモート面談や電話での聞き取り、アンケートを行なった。

3月は年度末や春休み、新規利用者の契約、アセスメントと重なり、

職員への負担がかかったため、実施時期ややり方を変えたい。
懇談以外にも送迎時などに聞き取り等コミュニケーション強化して支援に活かしている。

⑤ 学校や児童相談所、地域民生委員等との連携体制を強める
→必要に応じて学校や児童相談所等と連絡をとり、情報共有している。現在、地域民生委員とは関わりはない。

⑥ ブログやHPを使つての情報発信活動を強める
行事カレンダー更新、ブログ定期発行、情報共有の仕組みなど
→行事カレンダーは月1回更新。新規利用希望者が見てくださっていることが多い。
週1回程度ブログを更新し、集団活動の様子を発信。作品展のお知らせや自己評価表の公開の際にお知らせをアップしている。
保護者からはLINEの活用や写真の共有等の要望が出ている。

⑦ 苦情へ早期対応、ヒヤリハット・事故・災害への対応体制作り強化自然災害への対応情報発信、ヒヤリハット事故などの情報共有
→毎日の振り返りの際にヒヤリハットを出し合い、共有し必要であれば職員会議で検討している。また年数回、避難訓練を実施した。

(3) スタッフの確保と職員知識、技術レベルの向上を図る

① 非常勤スタッフの確保を図る活動を継続実施（学生主婦ロコミ）
→現在、学生と男性が少ないため、学生スタッフにチラシを配布し、サークル内で勧誘をお願いしている。男性に関しては今後、違う形での募集(Indeed等)を行いたい。

② 職員の支援技術向上のためミーティング、研修を継続的に実施する
→年2回程度勉強会を実施。児童部会や外部研修への参加し、全体に向けて報告、その他、プログラム検討やケース会議を実施した。

③ インターンなど積極受入でスタッフや職員につなげることを考える
→夏期にインターンシップの受け入れを行なった。職場体験要素が強いことや大学や自宅が遠くアルバイトに繋がっていない。大きな行事やイベント等もないので、アルバイト以外の繋がりも持ちにくい。

④ 職員、スタッフの情報共有を推進し、スタッフにもっと企画へ関わってもらふ仕組みを更に推進する
→タブレット、PCをスタッフ用に設置。デスクネットの電子会議室を活用し、利用者情報や引継ぎ事項を共有している。

- ⑤ 年1回程度スタッフとの面談を行い、支援内容や業務について要望や想いを聞き取り、研修や事業運営に活かす
→年度末に面談を行ない、聞き取りを行ない、不安や困りごとその他想いを聞き取り、こちらからの支援や業務に対する目標や要望等を伝えることで次年度の業務に生かしている。

(4) 業務の見直しと作業効率化を行う

- ① 事務作業、シフト組み作業（調整と連絡）の効率化を進める
→固定で勤務に入れる非常勤スタッフが多くなったことやLineworksの導入によりシフトの調整は効率よくなった。
- ② 業務手順の明確化と職員共有化を図る
→非常勤スタッフにも業務分担をもってもらうこともあり、業務計画と振り返りを行なうことで手順の明確化や共有化を図っている。来年度業務分担をなるべく変えずに配置することで、定着させたい。
- ③ 情報共有アプリ（Kintone）・請求ソフト（メイプル日誌）を戦力化
→利用者情報・支援情報を共有するためのアプリ（Kintone）を導入し戦力となり始めた。請求ソフトは範囲を限って利用している。

5. グループホーム

(1) 概要

※1 ホームウエストとはホームなづなとホームななくさをまとめた名称で会計上の拠点区分に対応。

※2 ホームイーストとはホームかしの木とホーム花園をまとめた名称で会計上の拠点区分に対応。

これまでの懸案だった利用者の高齢化、重度化、世話人の高齢化、慢性的な世話人不足、スキルの問題など本部からの応援を得て業務のマニュアルの作成・法人男子職員の応援を得て業務の見直し等に着手した経験をもとにをもちに“新嵐山”の準備室がスタートした。利用者の選考は高齢・重度の方に絞られホームかしの木・花園の該当する利用者にとっては待望の入居となる。並行して“新嵐山”の建設も9月にスタートし令和3年4月には竣工の予定。一方、年明け早々コロナ過の緊急事態に断続して見舞われホームにとっても試練の連続だった。昨今は変異型ウイルスが猛威を振るい頼みのワクチンは未だに実現していない。

ホーム利用者状況

令和3年3月31日現在

事業所名	定員	利用者数	年齢構成								障害支援区分					
			20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	平均	2	3	4	5	6	平均
ホームなづな	7	7	0	0	2	3	1	1	0	55	0	1	5	1	0	4.0
ホームななくさ	4	4	0	1	0	1	2	0	0	54	0	1	1	2	0	4.3
ホームかしの木	8	8	0	0	1	2	4	1	0	61	0	0	4	3	1	4.6
ホーム花園	9	9	0	1	1	2	2	1	1	61	0	1	4	3	1	4.4
合計	28	28	0	2	4	8	9	3	1		0	3	14	9	2	

月別利用者数・平均利用者数・平均区分・平均稼働率

令和3年3月31日現在

	月別利用者数												平均		
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	利用者数	区分	稼働率
ホームなづな	6.7	6.5	6.6	6.5	6.0	6.4	6.6	6.7	6.5	5.5	6.8	6.7	6.5	4.0	91%
ホームななくさ	3.7	3.6	3.7	3.5	3.1	3.5	3.6	3.5	3.2	3.2	3.5	3.5	3.5	4.3	86%
ホームかしの木	7.8	7.2	7.6	7.5	7.3	7.5	7.7	7.6	7.5	7.3	7.5	7.6	7.5	4.7	93%
ホーム花園	8.6	7.9	8.4	8.4	7.9	8.3	8.4	8.1	8.0	7.9	8.2	8.2	8.2	4.5	90%
合計	26.8	25.2	26.3	25.9	24.3	25.7	26.3	25.9	25.2	23.9	26.0	26.0	25.6	4.4	90%

(2) 支援の状況

① 日常生活支援

- ・個別支援を原則として、高齢化の進む利用者の対応（通院・体調管理）に力を入れ利用者が安心、且つ寛げるホームをめざしたがやまのうち・花園の一部は利用者世

話人ともに大変な状況が続き“嵐山”の完成が待たれた。

- ・利用者と世話人の比率は5：1がベースだが高齢化に対応すべく4：1の現行だがそれでも難しいケースの場合忙しい時間帯の世話人補充を行った。

② 余暇活動支援

- ・余暇の充実を図るため、利用者の意向を踏まえた情報提供を心掛け、移動支援サービス利用がスムーズにいくための体調管理、服装、おこずかいの準備などを行った。
- ・連休などは移動支援の外出だけでなく世話人とのホーム付近の散歩等可能な限取り組んだ。

③ 家族との連携

- ・ご家族の高齢化、利用者の重度化が進みご家族との連携と言えば体調管理が中心で、コロナ対策ではホームのクラスターを防ぐため各ご家庭と相談の上帰宅可能者要請などをお願いした。ご家族もそれぞれ困難な事情を抱えておられる中、殆どの方は応じて頂いた。改めてご家族の窮状を再認識し介護現場の責任を痛感させられた。
- ・行政からの補助もありできる限りのコロナ対策を行いホームでの生活の安全性が確保されつつありご家族にも安心して戴けている

④ 地域住民との連携

- ・ホームによっては家が立て込んでおりご迷惑をかけていることが多いが積極的に声掛けをするなどご近所とのお付き合いを大切にしている。コロナ禍で町内の行事などには参加できていないがご近所との関係は大切にしている。

⑤ ヘルパー利用

- ・様々な、支援がコロナで縮小されているがコロナ対策を踏まえ、形を変えての支援の工夫で利用者の日常を支えてくれている。

⑥ ホームスタッフ

- ・世話人には日々の業務マニュアル・利用者支援マニュアルを整備し支援内容を分かり易く示し、一部ホームでは業務日誌の内容の検討（将来的にはホーム支援の密室化が解消されるように）業務の徹底とホーム支援の見える可に取り組み始めている。IT化が難しいホームはスマホによるグループラインで世話人間の情報共有を図っている。
- ・スタッフの高齢化が進んではいるが何とか頑張っていたいでいる。“嵐山”に向けての求人により多くの人材が確保され世話人若返りに取り組み始めた。
- ・勤務体系が改善され夜間・早朝巡回に時間外手当が付く等賃金アップが実現した。
- ・ヒヤリハットについては毎年業務中のミス共有化を呼びかけているがなかなか浸透しない。

⑦ 研修

- ・かしの木にて職員と世話人合同の虐待研修会が行われた。初めての試みで、夫々の立場からの意見が交換された。
- ・防災の研修については防災消防署立ち合いの訓練はできなかったがホームごとの避難訓練はそれぞれに行った。

⑧ コロナ対策

マスク・消毒用アルコール・空気清浄機・デジタル温度計から始まりコロナ発生時に備えての備品調達に奔走した。世話人の皆さんにも意識を高めて戴きホームの備えもある程度の安心を得られるまでになっている。備品調達については国からの補助が十分にあり安心材料となった。

(3) 設備・備品・修繕等の整備状況 円

事業所名	内 容	金 額
ホームなづな	照明器具・掃除機	30,250
	コンセント増	16,500
	浴室バルブ交換	15,125
ホームななくさ	トイレ詰まり高圧洗浄	57,750
	ウオシュレット修理	31,900
	乾燥機修理	9,900
	シャワー取り換え	21,175
ホームイースト	合 計	187,100
ホームやまのうち	玄関鍵 1 式	149,050
かしの木ハウス		
ホーム花園	水漏れ水道工	160,000
ホームウエスト	合 計	309,050
ホームコロナ対策		
マスク	1200 枚	57460
アルコール	1500	109,830
空気清浄機	7	214,060
体温計	7	40,589
湿温計	30	10,650
防御服・キャップ	200 着	61,980
エプロン	160 枚	32,125
手袋・靴カバー	4700 枚	56,556
フェイスシールド	100 枚	10,340
パーテーション	12	30,000
ポータブル T/付属	2 台	44,840
食器類	800 回分	14,198
グループホーム全体		682,628
	総合計	1,178,778

6. 計画相談支援

事業の運営に当たっては、市町村障害福祉サービス事業者等との連携を図り、地域において必要な社会資源の改善、開発に努めた。利用者の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、利用者の選択に基づき、適切な障害福祉サービス等が多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるよう配慮した。また、学校在学者に対しては新たなサービス利用の相談や手続き等を行った。

業務の内容としては以下の通りである。

【サービス利用支援】

■ 障害福祉サービス等の申請に係る支給決定の前にサービス等利用計画案を作成。作成頻度は概ね1年に1回。

■ 支給決定後、サービス事業者等との連絡調整等を行うとともに、サービス等利用計画を作成

【継続サービス利用支援】

■ 障害福祉サービス等の利用状況等の検証（モニタリング）

■ サービス事業所等との連絡調整、必要に応じて新たな支給決定等に係る申請の勧奨

サービスの支給額は以下の通りである。

概ね年1回のサービス利用支援	1,462 単位/月
概ね6か月ごとの継続サービス利用支援	1,211 単位/月

職員体制としては1名増員し、非常勤専任者1名、常勤兼任9名（なづな2名・ふらっぷ2名・わかかな1名、かしの木3名、グループホーム1名）の相談支援専門員を配置。兼務業務の負担にならないよう、ミーティング等はSNS等オンラインの活用で情報共有に心がけた。

利用者の高齢・重度化に伴い今まで必要の無かったところに新たなニーズが生まれたり、高齢家族に対する支援の必要な困難ケースが増えてきており、益々の期待と支援力が求められているが、現行報酬体系のみでこれ以上質の高い支援を求めるには限界を感じている。

令和3年3月現在

	なづな	かしの木	一般	合計
計画実行数	21件	49件	8件	78件
モニタリング 実行数	12件	24件	1件	37件